

## 校長先生の部屋だより

### 哲学ルームだより



この「哲学ルーム」は、生徒、先生の区別なく、共に学校スローガンである「人間を学ぶ」空間です。

今日は3年生が8人ほど押し寄せてきました。

—今日はどんなテーマにする？

A：死について考えて見たいです。時々思うんですけど、寝てこのまま起きなかったらどうなるかって。身体は腐るだろうけれど、魂が残れば生きているんじゃないかと。魂が死んだときに死と言えるのではないかと。

B：魂ってあるの？

C：魂って何だ？

D：意識でしょ。

—ちょっと待って。じゃあ、動物や植物には魂はないってこと？物はどうだろう？物に魂はある？

E：つくも神。物が使い込まれることによって魂を持つこともあるかもしれない。

F：結局、魂は自己決定。植物は本能で生きているだけ。魂には意志があります。

—本能と意志の違いは？

G：無意識と意識の違いです。呼吸は無意識だから本能。本能は生存したいという欲求です。

H：自殺する人は？

I：自殺する人は自分の意志でそうする。

J：僕は自殺する人も生きていたいと思ってるんだけど、希望がもてなくて死を選んだと思います。

K：意識がなくなる、プラス本能がなくなることが死かなあ。

L：植物状態の人は生きているのかなあ。

M：死を決めるのは他人だと思います。

N：他人じゃないよ。生と死は自分の状態で決まる。

—どの時点を取って死というの？すべての細胞が死んだ時を死というの？通常は死の3兆候と言われていて、呼吸停止、心臓停止、瞳孔拡大が認められれば死です。脳死を人の死と認めると心臓が動いていても死体になります。こういう流れの中でどの時点でも死とすればいいのだろう。

O：みんなの記憶から消えたときが本当の死です。

P：僕は生物的な死と社会的な死が合わさって人の死だと思います。

—はい。もう時間です。

P：だから僕の言いたいことは・・・

—早く授業に行きなさいよ。

今日はたくさんの生徒が来てワイワイやっていました。それでもさすが、何となく流れができる。

